



2019.3.15 NO.2497

八幡西ロータリークラブ



BE THE INSPIRATION
インスピレーションに
なろう

2018～2019年度
会長 岩崎 員久
副会長 岸野 玲
幹事 有松 稔晃

《会報委員会》
福田 学 高嶋 雅樹 坂本 敏弘
中村 克己 江崎 嘉春 溝上 智彦
貞方 友明

例会場・事務局 北九州市八幡東区西本町1-1-1千草ホテル
TEL093-681-0694 FAX093-681-0984
例会日:毎週金曜日 12:30～13:30

RID2700地区岡野正敏ガバナーメッセージ
— 寛容と思いやり そして和の心 —
八幡西RC岩崎員久会長メッセージ
「元気になろう!! 八幡西ロータリークラブ」

次回例会のお知らせ 3月22日(金) “臨時総会開催”

本日の例会 2019年3月15日(金)

1. ロータリーソング “奉仕の理想”
2. 来客紹介
3. 出席状況の報告
4. 祝誕生 坂本敏弘君 S36年3月9日
5. 会長の時間
6. 各委員会報告
7. ニコニコボックスの報告
8. 幹事報告
9. 卓話 「健康のために悪いのは
酒かタバコか？」
親睦・健康管理委員会 副委員長 谷良樹君

中塚睦彦第3Gガバナー補佐の挨拶



先日行われましたIM
では沢山のご参加
ありがとうございました。
しかし全体的には
年々参加者が減って
きてると感じて
おります。地区大会
はRI会長代理をお
迎えしたりする

大変重要なイベントでございます。参加者が60%超えるように私も声かけをしてみまわっております。大変濃い内容の大会となっておりますので是非ともご参加よろしく申し上げます。

前例会の記録 3月8日(金)

出席報告 例会食事カロリー
1,100Kcal
会員数 53名
・当日の出席者数 36名
・ゲスト数 2名
・会員出席率 72.00%
・2月22日の修正出席率 100.0%
・ゲスト: スピーカー :岡本久人様
RID2700第3GAG中塚睦彦君

幹事報告 幹事 有松 稔晃

- 1) 飯塚RC創立50周年記念式典への参加と第2700地区「地区大会」への再度の参加要請。
- 2) 例会変更のお知らせ
★遠賀RC
①3月12日(火)18:30～焼き鳥 とり真
②4月 2日(火)18:30～場所未定
★戸畑RC
3月28日(木)12:30～コメドール

会長の時間 会長 岩崎 員久

本日は、中塚睦彦第3GのAGに先日の第3GI・M開催の報告、並びに第2700地区の地区大会ことでお出で頂きました。

2月度 100%出席皆勤表彰者

赤田隆一 君 15年
井口昭彦 君 6年
河島昭彦 君 1年

【ニコニコボックスの報告】

- ・中塚睦彦第3ガバナー補佐より多額にいただきました。
- ・本日の卓話者、岡本久人様を歓迎して
伊豆、小嶋、貞方、谷、藤村、井上、安東、松尾、有松、三島の諸君
- ・明日、明後日、JR門司駅がリボン。生まれ変わってグランドオープンします。1914年当時の駅が再現され趣のある駅になりました。宜しければ遊びに来てください。
村山君
- 誕生自祝 中村、浜崎の諸君
早退のお詫び 藤本、柿本、高嶋の諸君

誕生日おめでとうございます

浜崎 靖君 昭和13年3月8日



お祝いありがとうございました。私が入会した当初は誕生祝のコメントはなかったと記憶しています。誕生祝の時は亡くなられた福原さんと座ってたのを思い出します。ところで、自動車免許の切り替えがありました。ポケの検査をさせられまして認知症のテストをしたところ点数が低いから診断書が必要と言われましてあわてて友人のドクターに検査してもらい何とかクリアしました。実技がんばります。

中村 克己君 昭和45年3月2日



お祝いありがとうございました。この場にて40歳のとき初めて誕生日挨拶の時「40代になると自分の行動に責任を持つ」と報告しました。誕生日の前日まで北九州オープンゴルフトーナメント予選のスタート係をしていました。40代最後の年もまだまだ現場で皆様のお役にたてるよう努力します。

卓話 「地域づくりのシュミレーターで見る 八幡東区のカタチ」

次世代システム研究会会長 岡本久人様



ストック型社会とは「価値あるものを造って大切に長く使う社会」である。とりわけ資源量やコスト負担が大きな住宅や社会資本を長寿命型にし、何世代も使うことが重要である。欧州等のストック型社会とは対照的に、わが国は戦後の経済成長の過程でフロー型社会を構築してきた。

その結果、GDP(国内総生産)や賃金など経済指標は世界トップクラスの経済大国になったが、日本人の実質的生活には「ゆとり」がなく相応の豊かさがない。また世界トップクラスの賃金は、グローバル経済の中で日本の生産コストを高め、産業の国際競争力を弱めつつある。資金や技術の国際移転が自由な今、開発した新技術を国内の雇用創出や資産形成に向けるためにもストック型社会を目指すべきだ。今後は、環境・資源の面からも「スクラップ&ビルド」は続けられない。以上の総合的観点で、わが国をストック型社会に転換することが急務である。そこで低炭素社会を目指す北九州市環境モデル都市事業の中で、これを試みている。

1、市民の理解現に人々が生活している街を対象にするには、その理由と重要性について市民に納得してもらうことが不可欠である。そこでまずは、人口動態や地域(公私)資産劣化等の推移予測など生活に密接したデータや、世界人口や途上国の経済成長から見える資源限界などを整理した。

その上で無策のまま放置すれば地域がどうなるのか、今から直面する世界と地域の課題が人ごとではない現実と、新たな地域づくりで得られる未来を分かりやすく整理した。地球環境問題と、市民生活や地域経済の課題を同時に解決するストック型社会への転換の意味を、シンポジウムや説明会を重ねたり各種メディアを通して、市民に向けて発信し、理解を得てきた。

2、2050年地域近未来図の設計低炭素社会に向けた国際合意等からゴールの時期を2050年とし、それまでに達成すべき地域図の設計法を研究してきた。それを基に2030年、2020年のゴールを示し、達成シナリオを描くバックキャスト法を研究している。ハード設計2050年の世界(資源収支など)と地域の条件(超少子高齢化社会など)を前提に既存市街地を再設計する。その基本は、長寿命型街区とそのコンパクト化、およびそれによる発生余剰地活用である。街区は、時代の変化において不易な部分(長寿命型資産にする部分)とフレキシブルに変化する部分を分けて設計する「スケルトン&バッファー」という概念をつくった。発生余剰地は、各種自然資源の地産地消や生物多様性保全等、フレキシブルに利用できる部分である。また長寿命型コンパクト街区の位置を選択する「アロケーション」という手法を開発した。活断層、ハザードマップ、地形・地質等のデータを重ね合わせて、いつまでも安全安心な街区の位置を客観的に選択できる。しかし2050年の計画とはいえ、結果の公表においては現実の利害の壁は大きい。ソフト設計世代を超えた個人資産や社会資本の蓄積から、市民や自治体の生涯収支(世代収支)に「ゆとり」つまり「生活の豊かさ」を創出できることや、資源消費やCO2排出量削減から低炭素社会が実現できることを検証してきた。経済面では、海外で運用されている多額の日本の金融資産の投資先を、長寿命型資産形成を軸にして国内に向けるモデルの研究をしてきた。金融資産を価値劣化なき実物資産に換えるのである。地域ファンドなどこの金融モデルができれば、健全な内需拡大につながり、ストック型社会への転換過程が経済効果を生むことになる。終わりにここでの紹介事例は、まだ完成したものではなく修正すべき部分が多く、今後もツールの開発やより多様な分野連携が不可欠である。わが国では、この種の統合モデルは国より地方自治体の「現場」において先行的に行うのが現実的だと考えている。筆者は駐在員等で10年以上滞在したイタリアでの生活からフロー型社会の矛盾に気づき、前記の「長期優良住宅促進法」や国の環境モデル都市構想等に委員として取り組んできた。その後この北九州市の事業に参画しているが、これも多方面からのさらなる支援・協力を仰がなければ完成できない。